

六ヶ所村

ーシリーズー

「尾駿の駒・牧の背景を探る」

歴史フォーラム2015



「古代社会と“まだら馬”そして、尾駿の牧へ」

平成27年8月30日(日)

(午前10時30分～午後3時50分まで)

「雅楽・みちのく楽舎」による

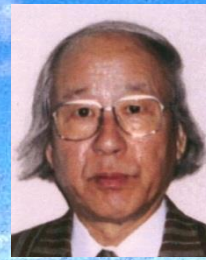


◇オープニングアクト
(10:40～15分)
左方の舞「^{ばとう}抜頭」
(走り舞)

◇基調講演①(11:00～70分)

「ユーラシアを西から東へ駆ける斑動物たち、そして、尾駿の駒へ」

富山大学・聖徳大学名誉教授
山口 博 氏



山口 博(やまぐち ひろし)
1932年、東京都に生まれる。東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。富山大学、新潟大学、聖徳大学教授、日本学術センター(在北京)客員教授を歴任。富山大学、聖徳大学名誉教授。専攻は古代文学。文学博士。著書に『王朝歌壇の研究』(桜風社)『王朝貴族物語』(講談社現代新書)『古代文化回廊 日本』(おうふう)などがある。

◇パネルディスカッション
(14:25～60分)

◇エンディングアクト
(15:35～15分)

雅楽・管絃演奏

「^{そでぶら}越殿楽 今様」 & 「^{ばい}陪臚」

◇基調講演②(13:10～70分)

「平安時代の尾駿沼周辺に馬はいたか？」

東海大学考古学専攻教授 松本 建速 氏



松本 建速(まつもと たけはや)
1963年、北海道に生まれる。信州大学大学院人文科学研究科修士課程修了。大学筑波大学院博士課程歴史・人類学研究科単位取得退学。現在、東海大学文学部歴史学科考古学専攻教授。博士(文学)。著書に「蝦夷と蕨手等」『物質文化』75号(物質文化研究会)「蝦夷と昆布」『海と考古学』(六一書房)『蝦夷の考古学』(同成社)『蝦夷とは誰か』(同成社)「本州東北部にアイヌ語系地名を残したのは誰か」『考古学研究』(考古学研究会)などがある。

◇六ヶ所村文化交流プラザ
・スワニー(大ホール)

◇入場料 無料

(但し、レジュメ資料代には、200円必要となります)

◇会長携帯No.: 090-3752-0935

「尾駿の牧」歴史研究会 推奨!

「おぶちの牧」弁当、ご賞味あれ!



だるまや店舗
電話 0175-72-2477

主催 / 六ヶ所村「尾駿の牧」歴史研究会

〈協賛〉(株)北商物産・トーヨー工業(株)・(有)平成運送

〈後援〉六ヶ所村・六ヶ所村教育委員会・一般財団法人 六ヶ所村文化振興公社(協賛)・六ヶ所村立郷土館・21 六ヶ所村を考える会・青森県文化財保護協会・公益財団法人 馬事文化財団・一般財団法人 賀茂県主同族会・賀茂競馬保存会・青森市教育委員会・八戸市教育委員会・弘前市教育委員会・十和田市教育委員会・三沢市教育委員会・七戸町教育委員会・野辺地町教育委員会・六戸町教育委員会・おいらせ町教育委員会・東北町教育委員会・横浜町教育委員会・東奥日報社・デーリー東北新聞社



一梅-1,000円



一竹-1,300円



一松-1,500円

六ヶ所村「尾駁の牧」歴史研究会

「六ヶ所村 歴史フォーラム2015」開催実施要項

1. 目的

当会設立以来の研究テーマである、当地が“尾駁の牧”の比定地であり、平安時代、馬の交易によって京の都とつながっていたのではないかという歴史的背景へ、より具体的且つ学術的に近づくため、村外の著名な講師陣をお招きし、その専門的な立場から意見を述べてもらい、その学術的研鑽を、後世への知的財産として蓄積することを目的として開催する。併せて、当村の薫り高い歴史文化の新たな側面を、村内外へ情報発信することを目的とする。

2. 発表の要旨

今フォーラムも、シリーズ化した「尾駁の駒・牧」の背景に迫るべく、特に今年テーマは、昨年パネルディスカッションにおいて質疑された、“なぜ、斑馬でなければならなかったのか？”また古代・六ヶ所村では、“本当に馬飼いは行われていたのか？”という当会の最重要検証課題に、古代文学研究の立場からと考古学研究のそれぞれの立場から詳細に検証し、その実態に迫って見るものである。

そこで、基調講演①として、「ユーラシアを西から東へ駆ける斑動物たち、そして、尾駁の駒へ」という発表テーマの中で、日本古代社会における斑思想を、ユーラシア大陸、海の彼方から説き起こし、“なぜ斑なのか”を解明し、そして、時の名馬として謳われた“尾駁の駒”輩出の背景に迫って見るものである。

基調講演②においては、「平安時代の尾駁沼周辺に馬はいたか？」という発表テーマから、古代・六ヶ所村出土の遺物を通し、物質的に人々の生活用具等の系統を考察し、馬を飼う目的で移住したとしか考えられない人々がどこから来たのかを語り、古代・六ヶ所村では馬飼いに特化するしかなかった背景と、「尾駁」の地名の定着の過程について、詳細に報告してもらう。

そして最後に、パネルディスカッションとして、テーマ「尾駁の駒・牧の背景を探る — 古代社会と“まだら馬”そして、尾駁の牧へ —」として、古代社会における“斑馬”思想を考察し、併せて当地が“尾駁の牧”と比定された背景についてディスカッションする。

3. 開催日時 平成27年 8月30日(日) 午前10時30分～午後 3時50分まで

4. 会場 六ヶ所村文化交流プラザ・スワニー「大ホール」

5. 入場料 無料 (※但し、レジュメ資料代には200円、必要となります)

6. 主催者 六ヶ所村「尾駁の牧」歴史研究会

7. 主な日程と内容 「六ヶ所村 歴史フォーラム2015」

10:30 ~ 10:35	1. 主催者挨拶
:35 ~ :40	2. 来賓祝辞
10:40 ~ 10:55 (10:55~11:10)	3. オープニングアクト (15分) 右方の舞「抜頭 (ばとう)」 (走り舞) 〔休憩 5分〕
11:00 ~ 12:10 (12:10~13:10)	4. 基調講演① (70分) 研究テーマ「ユーラシアを西から東へ駆ける斑動物たち、そして、尾駁の駒へ」 (富山大学・聖徳大学名誉教授：山口 博 氏) 〔昼食 60分〕
13:10 ~ 14:20 (14:20~14:25)	5. 基調講演② (70分) 研究テーマ「平安時代の尾駁沼周辺に馬はいたか？」 (東海大学考古学専攻教授：松本 建速 氏) 〔休憩 5分〕
14:25 ~ 15:25 (15:25~15:35)	6. パネルディスカッション (60分) ※内、質疑応答15分 〔休憩 10分〕
15:35 ~ 15:50	7. エンディングアクト (15分) 管絃演奏「越殿楽「今様」(えてんらく・いまよう)」 〃 「陪臚 (ばいろ)」